

# 一般社団法人 山梨県言語聴覚士会 NEWS

2017 Feb

vol. 37

《目次》 P1…新年の挨拶 P2～4…第9回学術大会・つどい報告 P5～8…参加報告 P9…復興支援ツアー報告・  
都道府県士会会長会議報告 P10…理事会報告 P11…各局からのお知らせ P12…編集後記

## 新年の挨拶

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 会長 内山 量史  
(春日居サイバーナイフ・リハビリ病院)

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。2017年が会員の皆様にとって素晴らしい1年になりますよう心からお祈り申し上げます。

当会は法人格を取得して3年が経過し、充実した学術・人材育成活動、職能活動や広報活動、県の事業への参画、関連団体との合同事業（山梨県リハビリテーション専門職団体協議会：以下 協議会）の展開など、全国に誇れる活動を展開し社会的に責任ある職能団体として成長を続けております。

しかし昨今の重要な課題となっております地域包括ケアシステムの構築や介護予防を含めた地域リハビリテーション活動の推進に貢献するためには、数の不足が指摘される言語聴覚士は、一人一人がその資質を高め、その力を結集することによってマンパワー不足を乗り越えていかなければなりません。

今年度は従来の活動に加え地域で言語聴覚士の力を十分に発揮できる人材を育成する目的で日本言語聴覚士協会が推奨する研修（初期研修6講座を3クール、導入研修8講座を2クール）を集中的に開催して地域リハビリテーション活動に資する基礎的な知識を習得できるよう取り組みました。多くの会員の参加によって、初期研修の修了者75名、導入研修：1月時点：地域包括ケア推進コース修了者36名、介護予防推進コース修了者39名が所定のプログラムを修了することが出来ました。

基礎的な知識を学んだ会員には実践現場の雰囲気を感じ、介護予防事業へのサポートを経験できる介護予防アドバイザー養成（協議会 地域支援事業等推進委員会）への登録もお願いしたいと思います。

毎年実施している「復興支援ツアー」は、今年は副会長、事務局長、理事、災害対策委員8名で熊本県を訪問し熊本県言語聴覚士会 山本恵仙会長の協力のもと阿蘇、益城町、仮設住宅、復興リハセンター、熊本城を視察することができました。会長として会員の善意である義援金を持参して1人で訪問した7月から6ヶ月経過し、街は瓦礫の撤去も始まり、更地が増え、500戸以上を有する仮設住宅にも店舗ができて生活に配慮された環境作りがされていました。一步一步復興に向けて前に進んでいる様子が窺えたことは希望でした。また、熊本城の完全修復を応援しようと県士会として復興城主に登録（寄付）させていただきました。これからも当会にしかできない支援を継続していこうと思います。

今年の干支の酉の由来は「果実が極限までに熟した状態」というところから物事が頂点まで極まった状態が酉年だと言われております。今年も当会は足を止めることなく地域職能団体の模範となる充実した活動や関連団体との良好かつ強固な連携に基づいた活動を展開していきます。3士会の合同学術大会の事務局担当や言語聴覚士の日の協会との共同広報活動など当会ならではの活動を計画しています。

本年も当会の活動にご理解をいただき、積極的な参加をお願い申し上げます。



## 第9回学術大会を終えて

大会長 赤池 洋

平成28年11月27日（日）に山梨大学医学部キャンパスにて山梨県言語聴覚士会第9回学術大会が開催され、多くの皆様のご協力、ご賛同のもと、盛況のうちに終えることができました。

今大会は「繋げる・支える・考える」～我々の実力と未来～をテーマに開催させていただきました。特別講演では山梨大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授の増山敬祐先生と日本言語聴覚士協会会長の深浦順一先生よりご講演を頂き、言語聴覚士を取り巻く現状と今後の展望について考える良い機会となりました。また、一般口演では7名の先生方から日々の臨床の成果や取り組み等の発表がありました。さらに学術大会初めての試みとなります施設紹介のポスター展示では各施設の特徴が明確に示され、日々の臨床に繋がる情報が得られたと思います。

最後となりますが、今大会を成功裏に終えることができましたのは、内山会長をはじめ赤池副会長、中村副会長、理事の先生方、そして快く引き受けて下さいました座長、査読委員の先生方にお力添えを頂くことができたからです。また、学術大会の準備・運営に携わって頂きました実行委員の皆様には心から感謝申し上げます。



実行委員長 小池 京子

平成28年11月27日、山梨大学医学部キャンパスにおいて開催されました第9回学術大会は、80名を超える会員にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。

今大会は「繋げる・支える・考える」～我々の実力と未来～をテーマに掲げ、企画を致しました。「繋げる」では、県内のSTが勤務する病院・施設の紹介ポスターを掲示し、顔の見える関係作りを目指しました。特別講演では日本言語聴覚士協会会長の深浦順一先生のご講演より、高齢者を対象とした地域リハビリだけでなく、特別支援教育の領域でも「支える」場が広がっていることを学びました。山梨大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授の増山敬祐先生のご講演からは、医師の立場から摂食嚥下障害に対する治療方法を学び、医師から求められる言語聴覚士の役割について「考える」ことができたと思います。今大会が、私たち言語聴覚士の未来に繋がり、支え、考え、実りのある機会になりましたなら幸いです。



最後に、ご多忙な中、相談にのっていただいた県士会執行部の先生方、査読や座長をお引き受けいただいた先生方、大会長、実行委員の皆様、及び当日、ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

## 第9回学術大会 発表報告

山梨大学医学部附属病院 前田 恭子



平成28年11月27日に開催された山梨県言語聴覚士会第9回学術大会において発表させていただきました。タイトルは「voice prosthesis を使用したシャント発声患者のための支援活動の現状と言語聴覚士の果たす役割」で、第6回本大会で発表させていただいた現状の続報となるものでした。日頃、臨床で活躍されている先生方がシャント発声の患者様にお会いする機会は少ないと思います。そこで、シャント発声の患者様が抱える問題や山梨県の現状をお伝えしたいと思い、今回の発表に至りました。問題点として、県内においてシャント発声のための消耗品類の助成に関して、一部助成のない市町村があり経済的な地域差が生じていること、また現在は自立している患者様も年齢を重ねられ、今後は地域でのサポートが必ず必要となってくることを報告させていただきました。ことばやコミュニケーションのスペシャリストであるSTだからこそ、地域や在宅でシャント発声の患者様にお会いした際には率先してサポートいただきたいと思っております。今回、発表の場をいただけたことに深謝申し上げます。

## 第9回学術大会 実行委員を経験して

甲府城南病院 脇坂 英寿

第9回学術大会は、私が初めて実行委員（企画部部長）を務め、運営側の視点から見つめる大会となりました。

『「繋げる・支える・考える」～我々の実力と未来～』のテーマを体現するように、施設紹介のポスター展示などを通じ、会員各施設の連携を強化できる、有意義な場となりました。企画部としては、チャリティでのパンの販売など新しい試みも行い、賛助会員による企業展示も、過去にない6社に参加して頂きました。

成功に向けて実行委員の皆様と共に相談し、協力できたことは、とても貴重な経験となりました。大会前には準備不足からご迷惑をお掛けしましたが、無事に終了したことに胸を撫で下ろす一方、反省点も多々ありますので、次の機会に活かしていきます。

大会に参加された方々、職場に残り業務を行って下さった方々、また、仕事が遅れがちだった私を叱咤激励し、支えていただいた赤池大会長、小池実行委員長、実行委員の皆様深く感謝致します。



## 学術大会参加報告

甲州リハビリテーション病院 神田 侑

この度、県土会の学術大会に参加しました。

「繋げる・支える・考える～我々の実力と未来」というテーマの下、様々な演題を聞くことができ、有益な時間を過ごすことができました。

特別講演では、言語聴覚士協会会長の深浦順一先生より、「言語聴覚士と言語聴覚療法の未来」と題して貴重なご講演を頂きました。

これからのリハビリ職は、地域包括ケアシステムが推進されていく中で、病院や施設だけに留まらず、地域での活躍が求められることを、改めて学ぶことができました。また、地域で活躍していくために、STの認知度を高めるための方法や、STが提供できるサービス・価値について1人1人が掘り下げて考えていく必要性を感じました。

今回の学術大会で得られた学びを日々の臨床に活かしていきたいと思えます。

あけぼの医療福祉センター 土橋 恭子

第9回学術大会に参加させて頂きました。今回、初めての参加でしたが、先生方の口演発表や、特別講演、チャリティーバザーなど、とても充実した1日を過ごすことができました。また、施設紹介ポスターの掲示もあり、他院の先生方と情報交換をすることが



できる大変貴重な機会でもありました。小児の領域で勤務していますが、発達障害領域での口演発表では、今後自分の職場でもいかしていけるような視点やアイデアを学ぶことができました。今後もこういった機会を大切にして、自己研鑽を積み、先輩方のように活躍できるSTになっていきたいと、気持ちを新たにすることができました。

## 山梨県失語症者のつどい参加報告

甲府共立病院 手塚 仁美

平成28年11月20日に「第21回山梨県失語症者のつどい」が大木記念ホールで開催されました。昨年に引き続きコミュニケーションワークショップ、各友の会発表の他、都留市失語症友の会「水車」の方々の体験インタビューと、「心が動けば体が動く 音に合わせて心が踊る」をテーマに音楽療法を行いました。音楽療法士のかげ声に皆で歌い、身体全体で踊り、楽器を演奏するなど、会場全体が盛り上がりました。昨年に比べ参加人数はやや少なめでしたが、アットホーム的なあたたか味のある時間を過ごすことができました。

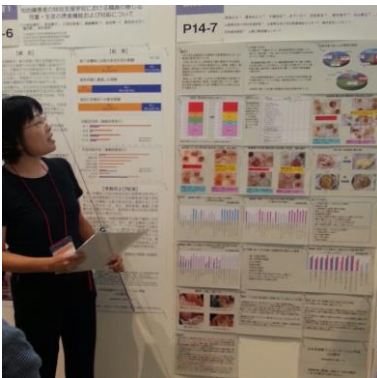
日常の業務の中では失語症を抱えた方々が地域で暮らす様子を知る機会は少ないですが、参加者の方々が笑顔いっぱい交流している姿に触れ、言語聴覚士の役割と意義を学ぶことができました。



# 学会・研修会参加報告

## 第22回日本摂食嚥下リハビリテーション学会に参加して

石和共立病院 近藤 七海



平成28年9月23日～24日、新潟県の朱鷺メッセで行われた「第22回日本摂食嚥下リハビリテーション学会」に参加させていただきました。今回は「摂食嚥下リハビリテーションの新たな挑戦—これからの20年を考える—」という大会テーマで、言語聴覚士だけでなく、歯科領域から栄養領域、看護領域まで、様々な職種からの演題がありました。

舌圧検査の活用についての演題発表では、舌圧を数値化し、ゲーム感覚で楽しみながら訓練を行う事で患者様のモチベーションアップに繋がる事を学び、自分の臨床に取り入れてみたいと感じました。また、企業展示のブースでも、嚥下を可視化出来るような機器が紹介されていました。嚥下障害は

目に見えにくいですが、だからこそ可視化することで、医療従事者にも患者様にも分かりやすくなるのではないかと感じました。

また、「咀嚼」という観点から4人の先生方(歯科医師、医師)からの講演がありました。咀嚼の仕組みの基礎から、義歯の役割や高次脳機能との関連についてもお話し頂き、摂食嚥下のリハビリには、歯科領域などとも連携し、多職種に関わることの大切さを改めて感じました。咀嚼することで味や香り、歯ごたえなど多様な感覚を得られること、その感覚を認知、処理することで喜び、食欲といった感情や味などの記憶にも関係してくるというお話がとても印象に残りました。これからも様々な観点から摂食嚥下について捉えていけるよう心がけたいです。

今回の学会ではたくさんのことを学ぶことが出来ました。今後も様々な職種と連携しながら、学んだ事、感じたことを活かし、患者様と関わっていきたいと思います。

---

## 第40回日本高次脳機能障害学会学術総会参加報告

春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 小澤 しず香

平成28年11月11日～12日に長野県のキッセイ文化ホール・松本市総合体育館で開催された第40回日本高次脳機能障害学会学術総会に参加させていただきました。「思考のジャンプ」を学会テーマとし、医師・看護師・PT・OT・STなど他職種が集い、様々な分野の視点から活発な意見交換が行われました。「エキスパートに聞く」の講演で横張琴子先生の「重い障害を越えて再び輝き始める脳の底力—超慢性期重度失語症者の生命の灯が輝き出す時—」を聴講しました。どんなに重度であっても…発症から長い年月が経過していても…その方の残された能力を発揮できるよう、諦めず生きる喜びや目的を探しだす先生の言語聴覚士としての活動に心を打たれました。

今回、学んだあらゆる視点からの考え方を今後の臨床の場面で活かせるよう、日々努めていきたいと思います。



## 山梨県言語聴覚士会 社会局講演会参加報告

ツル虎ノ門外科・リハビリテーション病院 舟越 あゆみ

平成 28 年 11 月 12 日に開催されました、社会局の講演会に参加させて頂きました。一般社団法人 沖縄県言語聴覚士会 会長 久志柴乃先生より、「地域ケア会議における言語聴覚士の役割と課題 ～ 沖縄県地域ケア会議の報告～」というテーマにて、ご講演を頂きました。



地域ケア会議を推進していく流れがある中で、実際に地域ケア会議に出席している言語聴覚士はまだまだ少なく、今回、具体的な会議内容や、どのような事例や事案が検討されているのか等を伺うとともに、言語聴覚士としてどのように出席していくのかを知ることができ、大変参考になりました。

地域ケア会議に参加する言語聴覚士として、どのような事例・事案が提案されても、「認知機能」「コミュニケーション機能」「嚥下機能」「難聴」と絡めて考え、助言していく重要性や視点が必要であることを学びました。さらには、自分自身の住まいの地域情報を把握しながら、業務を行っている病院・施設等の枠にとらわれない柔軟な視野・対応力を養っていく必要があると感じました。

---

## 第 7 回訪問リハビリテーション実務者研修会に参加して

石和温泉病院 南 曜子

平成 28 年 11 月 12 日（土）・13 日（日）石和温泉病院健康増進施設 クアハウス石和で開催された第 7 回訪問リハビリテーション実務者研修会に参加しました。「地域から求められる訪問リハビリテーションを目指して」～訪問リハビリテーションの役割と実践～をテーマに、シンポジウム、ワークショップ、講義が行われました。講義では、言語聴覚士の熊谷大先生（浜通り訪問リハビリステーション）による復興特区における活動報告もあり、南相馬市の現状、ST の実践状況、他職種との連携等について有益なお話をうかがうことができました。2 日間の研修を通じて訪問リハビリテーションの実際に触れ、医師や行政を含めた他職種との連携の重要性を再認識し、地域で ST が果たすべき役割について考える機会となりました。訪問リハビリテーションに限らず病院での実務にも関わる内容を多く学ばせていただきましたので、今後の臨床に活かしていきたいと思います。



## 「失語症の長期経過」 参加報告

甲府脳神経外科病院 白鳥 悠子

平成28年12月9日にびゅあ総合にて、「失語症の長期経過」をテーマに開催された中川良尚先生の講演会に参加しました。日頃、急性期の患者様と関わっており、非常に興味深い内容でした。

現在の“慢性期”と呼ばれる時期においても機能回復を認めた症例が多数いる事。また、一度回復した機能も使用しなければ低下してしまう為、継続した評価・訓練・指導が必要である事。しかしながら、その症例を受け入れる場所が圧倒的に少ない事。県内でも外来リハを実施している施設は少なく、当院でも行えていないのが現状です。

当院では発症当日からリハビリが処方されることもあります。患者様、またそのご家族から「治りますか?」「どの位かかりますか?」と尋ねられることも多いです。発症して間もない混乱や不安の多い時期にどこまで予後や経過をお伝えしたらいいのか悩む所ではありますが、患者様やご家族へしっかりと情報をお伝えし、今後に繋げていけるよう取り組んでいきたいと思えます。



---

## 「多職種連携で挑む摂食嚥下リハビリテーションの実際」 参加報告

恵信甲府病院 藤原 裕己

平成29年1月20日に山梨市民会館で、第4回学術部講演会が開催されました。今回のテーマは、「多職種連携で挑む摂食嚥下リハビリテーションの実際～看護師による取り組み～」について藤田保健衛生大学病院の認定看護師である三鬼達人先生ご講演を聴かせて頂きました。今回は、摂食嚥下障害看護の認定看護師の役割や、摂食嚥下患者に対して使用している評価法や病院独自で作成したプロトコルをご紹介して頂きながら、実際どのように多職種連携を図っているのかをお聞きすることができました。

当院では、摂食嚥下障害の患者さんが大半の割合を占めている状況です。摂食嚥下障害の患者さんに対して、STだけでは効果的な口腔ケア、嚥下リハを提供することは困難な現状であり、当院でも多職種連携が不十分であると事を痛感しました。多職種連携を効果的に行うには、「多職種の役割理解」「相互コミュニケーション」「行動力」が必要であると感じ、当院においても、まだまだ、足りない部分でもあります。これらを補い、「患者様やご家族様」の為に効果的な多職種連携が図れるよう、日々の臨床において自ら積極的に多職種へ働きかけを行っていきたくと思いました。



# 熊本復興支援ツアー報告

山梨大学医学部附属病院 石田 礼

平成 28 年 12 月 17～18 日に内山会長、赤池副会長、中村副会長、河西事務局長、赤池理事、小池理事、高橋理事とともに熊本復興支援ツアーに参加させていただきました。

平成 28 年 4 月 14 日、熊本県熊本地方（熊本市、益城町周辺）を震源地とした地震が発生しました。益城町では震度 7 の非常に激しい揺れを観測し、その 2 日後、本震とみられていた地震よりも規模の大きい地震が発生しました。九州地方で震度 7 の揺れを観測したのは、近代地震観測史上初であり、さらに東日本大地震も含めて国内で観測された地震の中でも最大の揺れを記録しました。

今回の復興支援ツアーは、レンタカーを利用し、熊本県言語聴覚士会会長の山本恵仙先生に南阿蘇村、益城町を中心に案内して頂きました。南阿蘇へ向かう道路は、通行止めのための迂回路が目立ち、ひび割れた道路や崩れた木々が地震の爪痕の大きさを感じさせました。被害の最も大きかった益城町では、依然として瓦が崩れビニールシートで覆われた家や更地の多さ、何より仮設住宅で暮らす方が想像以上に多い現実に驚きました。仮設住宅がある場所は仮設団地と呼ばれ、私たちが視察した仮設団地は 500 戸以上を有しており、団地内にはスーパーマーケットや飲食店、集会場など生活や余暇に配慮された施設を併設していました。一方、車窓からは、新しい住宅が建設されているなど、復興が一步一步進んでいる様子を垣間見ることができました。



また、今回の地震で、重要文化財に指定されている建物(全 13 棟)の全てや石垣の 3 割以上を損傷した熊本城も見学に行きました。案内の方が、熊本城を見ながら、「立派だったんです…」と涙された姿に、熊本城が熊本県民の誇りであり、地域住民の心の傷の深さを目の当たりにしました。熊本市は、熊本城の復興までに約 20 年間、総費用 634 億円と試算しているそうです。昨年 11 月から「復興城主（一〇一万円）」の取り組みが始まり、県士会として登録させていただきました。（個人で振込での申し込みも可能です。）

そして、熊本県復興リハビリテーションセンターでは、今現在も続く被災した方々へのリハビリ支援の現状を視察しました。このセンターは、熊本県が被災者の心身機能の低下を防ぐことを目的に設置し、センターに登録された県内の各病院や施設のリハ専門職が発災から 8 ヶ月が経過した現在も、地域へ出向き、精力的に生活不活発病予防及び介護予防に取り組んでいるそうです。災害時はもちろんのこと、災害が起こった後の生活不活発病や介護予防での活動の重要性について改めて知るとともに、日頃から顔の見える関係作りも重要であると感じました。





時間が経過する中で熊本地震の話題を耳にすることは減り、それに伴い関心も薄まっているように思います。しかし、現地を実際に訪れてみると復興はまだまだ時間が必要だと実感しました。私たちは、被災地で起こった現実を忘れず、その教訓をこれからに活かし、個人として、職能団体として継続的な支援を続けるとともに、いざという時のための準備が早急に求められていると感じました。

最後に、今回の震災でリハ専門職として第一線で活躍されている熊本県言語聴覚士会会長山本恵仙先生はじめ、災害対策チームの皆様にご敬意を表すとともに、心からのエールを送りたいと思います。そしてこの熊本復興支援ツアーが、県士会会員の皆さんにとって、熊本地震を風化させないためのきっかけになることを願っています。



## 平成 28 年度秋期都道府県士会会長会議報告

湯村温泉病院 赤池 三紀子

平成 28 年 10 月 29 日（土）に朝日生命大手町ビルにて都道府県士会会長会議が開催され、深浦会長の挨拶、各部・委員会からの報告・説明・質疑応答が約 3 時間にわたって行なわれました。

1. 基礎講座講師養成研修会は今年度で終了、来年度以降は要件を定め各士会で講師を養成する点と登録申請についての説明（生涯学習部）。
2. 来年度言語聴覚の日イベント共催県は山梨県と群馬県（広報部）。
3. 大規模災害リハビリテーション支援関連協議会（JRAT）活動では熊本地震、鳥取地震についての経過報告（災害対策部）。
4. 地域リハビリテーション活動支援事業推進に向けた人材育成事業に関する説明では、この時点で修了書の発行は2県のみ、各コース 20 数名（介護保険部）。
5. 国が行う失語症者向け意思疎通支援者養成事業の主旨説明があり、平成 29 年度以降の講師養成研修会の講師やテキストについての説明（立石副会長）。



各県士会の事業内容には大きな差があり、当会は協会が進める地域リハビリテーション活動支援事業への参画及び質の担保のための研修会の実施等を通してさらに地域へ貢献する責務を感じました。今後とも協会と当会の事業へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 理事会報告

### 【平成 28 年度 第 5 回理事会議事録】

日 時：平成 28 年 8 月 25 日 18 時 40 分～21 時 15 分

場 所：春日居サイバーナイフ・リハビリ病院

議 長：内山量史

出席理事：内山量史・赤池三紀子・中村晴江・赤池洋、池神多加子・和泉裕二・市川奈弥・小池京子・佐々木蘭子・高橋正和・元木雄一朗・吉澤由香・河西祐子

欠席理事：梶原さわか・桂川謙祐

<協議事項>

1. 症例検討会の進め方について今後検討していくこととなった。
2. 県士会社章バッジ、名刺を作成することが決定した。
3. 第 3 回 DVD 研修（初期研修）の日程・講師が決定した。第 1 回・第 2 回導入研修の日程が決定した。
4. 認知症サポーター養成講座を開催することが決定した。
5. 来年の言語聴覚士の日のイベント企画としてヴァンフォーレ甲府事務局と打ち合わせを行ったことが報告され、詳細については今後検討していくことになった。
6. 県士会ニュース 36 号の企画案が承認された。
7. 平成 28 年度介護職場人材育成研修の講師が決定した。

<報告事項>

1. 第 2 回学術講演会、第 3 回症例検討会が開催されたことが報告された。
2. 県士会ホームページが一部アクセスできない状態となっていることが報告された。
3. 第 21 回山梨県失語症者のつどいが 11 月 20 日（日）大木記念ホールで開催されることが報告された。

### 【平成 28 年度 第 6 回理事会議事録】

日 時：平成 28 年 9 月 16 日 18 時 40 分～21 時 40 分

場 所：春日居サイバーナイフ・リハビリ病院

議 長：内山量史

出席理事：内山・赤池(三)・中村・池神・市川・桂川・小池・佐々木・高橋・吉澤・河西

欠席理事：赤池(洋)・和泉・梶原・元木

<協議事項>

1. 県立図書館に「失語症のすべてがわかる本」「生活を支える高次脳機能リハビリテーション」の 2 冊を寄贈することが承認された。
2. 次年度、県士会 HP をリニューアルすることが決定した。
3. 導入研修の講師、会場が決定した。

<報告事項>

1. 山梨県リハビリテーション病院・施設協議会からの補助金が入金されたことが報告された。
2. 社章バッジ・名刺を作成したこと、がんフォーラムへ参加したことが報告された。
3. 甲府市在宅医療・介護連携推進会議、在宅医療支援チーム「県政トーク GO-TO 知事が行く」へ出席したことが報告された。
4. 災害対策準備委員会研修会の開催が報告された。

### 【平成 28 年度 第 7 回理事会議事録】

日 時：平成 28 年 10 月 18 日 18 時 40 分～21 時

場 所：春日居サイバーナイフ・リハビリ病院

議 長：内山量史

出席理事：内山・赤池(三)・中村・赤池(洋)・池神・市川・桂川・小池・佐々木・高橋・元木・吉澤・河西・梶原・和泉

<協議事項>

1. いきいき山梨ねんりんピックの運営ボランティア人選や実施内容について、次年度再検討していくこととなった。
2. 平成 28 年度県施策及び予算編成に伴う自民党への要望書については 3 役で対応し、その後、理事会で報告することが承認された。

<報告事項>

1. いきいき山梨ねんりんピック 2016 への出展、アンケート結果が報告された。
2. 4 士会合同ワーキンググループ会議、山梨県民間病院協会 PT・OT・ST 部会 第 2 回幹事会、第 3 回地域リハビリテーション従事者研修会実行委員会への出席、山梨県民間病院協会 PT・OT・ST 部会研修会開催について報告された。

### 【平成 28 年度 第 8 回理事会議事録】

日 時：平成 28 年 11 月 22 日 18 時 35 分～20 時 55 分

場 所：春日居サイバーナイフ・リハビリ病院

議 長：内山量史

出席理事：内山・赤池(三)・中村・赤池(洋)・池神・和泉・市川・桂川・小池・佐々木・高橋・元木・吉澤・河西

欠席理事：梶原

<報告事項>

1. 自民党への要望事項の提出、県士会名入り封筒の作成が報告された。
2. 山梨県民間病院協会主催知事・副知事・県福祉保健部幹部との懇談会、甲府市在宅医療・介護連携推進会議、日本言語聴覚士協会秋期都道府県士会会長会議への出席が報告された。また、ケアマネ協会と 3 士会の合同ワーキンググループの名称が「やまなし地域リハ・ケアの推進を考える会」に決定したことが報告された。
3. 平成 28 年度山梨県地震防災訓練へ参加したことが報告された。
4. 1 月 25 日に地域支援事業等推進委員会主催研修会、2 月 19 日に PT・OT・ST 指導者育成研修会が開催されることが報告された。
5. 代表者会議を 2 月 3 日(金)にベルクラシック甲府で開催予定であることが報告された。

書記：安富朋子・山田 徹・坪井沙妃・山田典子  
議事録作成：河西祐子

## 各局からのお知らせ

### 事務局

#### <総務部>

- 平成28年度代表者会議を2月3日にベルクラシック甲府にて開催しました。20施設、28名の方にご出席いただき、各局・委員会の活動報告、内山会長の挨拶の後、各施設の現状や来年度の動向など情報交換を行いました。和やかな雰囲気の中で親睦を深めることもでき大変有意義な時間となりました。
- 第9回学術大会で開催されました「東日本大震災復興支援チャリティバザー」の収益金37,120円は、全額、福島県言語聴覚士会を通じて「福島県失語症友の会」に寄付させていただきました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



#### <財務部>

- 平成28年度の会費はほぼ全ての会員に納入していただきました。皆様のご理解・ご協力に感謝いたします。

### 社会局

#### <職能部>

- 一般社団法人山梨県民間病院協会PT・OT・ST部会研修会を10月4日(火)に笛吹市スコレーセンターで開催されました。参加人数は206名(STは41名)でした。
- 社会局主催研修会を11月12日(土)に国立病院機構甲府病院の大会議室で開催されました。「地域ケア会議における言語聴覚士の役割と課題—沖縄県地域ケア会議の報告—」と題しまして一般社団法人沖縄県言語聴覚士会会長の久志紫乃先生からご講演を頂きました。参加人数は28名(学生2名)でした。
- 平成28年度地域リハビリテーション従事者研修会を11月22日(火)に中央市立玉穂総合会館で開催されました。参加人数は74名(STは5名)でした。
- 熊本復興支援ツアーを12月17日～18日に実施し当士会より8名が参加しました。発災して半年以上が経ち、メディアからの情報も少なくなっていますが、現地はまだ今も至る所に全壊した家屋がそのまま残され、傾いた電柱や隆起した道路など、地震直後と変わらない光景が見られました。これからも復興に向けた取り組みを続けていきたいと思っております。このツアーの感想が今号に記載されていますのでご覧ください。

#### <地域部>

- 11月20日(日)に第21回山梨県失語症者のつどいが開催されました。友の会の会員の減少が進んでいます。地域に暮らす失語症者がいましたら、ぜひお声掛けをお願いいたします。
- 12月1日(木)に第2回地域部部会を開催し、各地域での現状報告や情報交換を行いました。
- 12月4日(日)に口唇口蓋裂家族会「クローバーの会」が主催の研修会が開催され、渡辺そのみSTが講師として講演を行いました。

### 学術局

昨年は、学術局主催の講演会・研修会にご参加及びご協力いただきありがとうございました。

本年もより充実した内容の講演会・研修会を企画できるように努めてまいりますので、会員の皆様のご参加をよろしくお願い致します。

#### <学術局>

第4回学術講演会(平成29年1月20日開催)をもって今年度の講演会は終了致しました。

#### <研修部>

第6回症例検討会

日時：平成29年2月16日(木) 18:30～

発表者：野村 友里先生(甲州リハビリテーション病院)

スーパーバイザー：赤池 洋先生(山梨大学医学部附属病院)

発表者：渡邊 要先生(健康科学大学リハクリニック)

第5回小児領域勉強会

日時：平成29年2月18日(土) 14:30～

#### <教育部>

第6回新卒者研修会(平成28年12月6日開催)をもって今年度の研修会は終了致しました。

会場：甲府市東公民館

バイザー：石田 礼先生(山梨大学医学部附属病院)

バイザー：小池 京子先生(国立病院機構甲府病院)

会場：甲府共立診療所

**RIONETMAJES**  
リオネットマジエス

新たな聞こえの感動へ  
リオネット補聴器の技術を結集した  
リオネットマジエス誕生



30th おかげさまで

認定補聴器専門店  
**山梨リオン補聴器センター**

〒400-0032 甲府市中央5丁目2-29  
受付時間/月曜日～土曜日 朝9時～夕方5時まで  
定休日/日曜日・祝祭日 駐車場あり

お気軽にご連絡ください **0120-293321**

**foodCare JAPAN**

第21回安藤百福賞  
「発明発見奨励賞」受賞

世界初の  
酵素入りゲル化剤  
**スベラカーゼ**  
特許取得済



株式会社 フードケア [www.food-care.co.jp](http://www.food-care.co.jp)  
〒252-0143 神奈川県 相模原市 緑区橋本4-19-16 OMGビル  
TEL: 042-700-0555 FAX: 042-700-7444

病院で使われている介護食を、ご家庭にお届けしています。 **在宅 HEALTH CARE FOOD 通信販売**

「嚥むこと、飲み込むことが苦手な方」  
「嚥下調整食分類2013」と対応する他介護食品の分類を一覧で紹介

「飲食時によくむせる方」  
「食の細かい方」  
「嚥下調整食分類2013」と対応する他介護食品の分類を一覧で紹介

病態別に「たんぱく制限用」「カロリー制限用」カタログもご用意しております

株式会社ヘルシーネットワーク **0120-236-977**  
〒191-0024 東京都日野市万願寺1-34-3  
受付時間 9:00～17:00 ※日・祝除く **FAX 0120-478-433**

ヘルシーネットワーク **検索**  
<http://www.healthynetwork.co.jp>  
スマホでのアクセスはこちら

**Horinago**

おいしく、たのしく、嚥下リハビリのお手伝い  
嚥下リハビリ食のラインナップ紹介

様々な製品を取りそろえています。

エソジョイゼリー  
エソジョイカップゼリー  
エソジョイパイコロゼリー

0120-52-0050 クリニコ <http://www.clinico.co.jp> 株式会社クリニコ

唾液のチカラで健康と笑顔を  
お口をやさしくケア **ペプチサル・シリーズ**

**Pepti-Sal**

Pepti-sal(ペプチサル)とは、  
「Peptide(ペプチド)」+  
「Saliva(唾液)」の造語。

唾液のチカラに着目して開発された  
低刺激性のオールケア製品です。  
デリケートなお口をやさしくケアし、  
お口の環境を健康に保ちます。  
要介護の方のケアにもおすすめです。

2014年12月発売

0120-555-350 [www.comfort-tk.co.jp](http://www.comfort-tk.co.jp)

私たちはシャント発声のプロフェッショナルです

喉頭を摘出された方々のQOL向上のために、シャント発声のリハビリテーションや患者さまを対象にした勉強会を行っています。シャント発声について興味のある言語聴覚士の皆さまには、実際のリハビリテーションの様子や勉強会を公開しておりますので、お気軽にお問合せください。

**Atos** 株式会社アトスメディカルジャパン / 〒104-0033 東京都中央区新川1-3-17 新川三幸ビル2F  
tel 03 4589 2830 / fax 03 5540 0890 / [info.jp@atosmedical.com](mailto:info.jp@atosmedical.com)



**編集後記**

今年度から新たに会報編集・HP管理部のメンバーに加わりました、山梨厚生病院の山本です。新たな年を迎え、アメリカ大統領も新たな人物になり国際的にも変化をしていきます。国内でも様々な変化が予想されます。その中で医療・福祉分野でも変化が著しく、私自身もついていくのに苦労しています。しかしその流れに取り残されないようにしていかなければならないと思います。毎日の臨床の中では患者様の変化をしっかりと把握し、対応していくと共に知識・技術も今まで以上に切磋琢磨していきたいと思ひます。

まだまだ部会にも慣れないことが多くあり、ご迷惑をかけておりますが少しでも会報編集・HP管理部の力になり一緒に部会を盛り上げていけるように取り組んでいきたいと思ひます。

**一般社団法人山梨県言語聴覚士会ニュース**

- <発行所> 一般社団法人 山梨県言語聴覚士会  
<発行人> 内山量史  
<編集> 一般社団法人山梨県言語聴覚士会 広報局会報編集・HP管理部
- 石和温泉病院 高橋正和 坂井隆一  
石和共立病院 渡邊千裕  
一宮温島病院 倉倉雪乃  
春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 佐々木蘭子 小澤しず香  
恵信甲府病院 藤原裕己  
白根徳洲会病院 村上松薫  
国立病院機構甲府病院 小松富美子  
山梨厚生病院 山本雄太  
湯村温泉病院 岡大樹
- <事務局> 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 言語療法科内  
〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府436  
TEL0553(26)4126 FAX0553(26)4366  
<発行日> 2017年2月28日 第37刊